



日本共産党文京区議会議員
まんぢ幹夫 通信
 2010年8月30日号 No.157

'みなさんをいつもまんぢに、

区議団控室：5803-1317（直通）
 萬立幹夫事務所：文京区小石川2-23-7
 ・fax 3868-8355
 メール：mandachi@jcp-bunkyojugidan.gr.jp

《このニュースは区議団ホームページ <http://www.jcp-bunkyojugidan.gr.jp/>でもご覧いただけます》

全都地方議員研修会でバッチリ勉強してきました

**青年の雇用問題、東京はとくに深刻。「就職した大学生60・8%」
 文京区としても雇用など総合相談窓口を急いで設置すべきです**

東京都内の共産党地方議員が参加する研修会に行ってきました。

全体会では、政権交代後の民主党政権の見方や、民主党の言う「地域主権」は小泉「構造改革」の継承であることなど講義を受け、交流をしました。

私の参加した分散会は「中小企業対策と青年雇用」。青年雇用の実態を聞いて実に驚きました。文科省の調査では、今年の大学生の就職比率はなんと60・8%、過去最大の落ち込みだそうです。また東京では、15〜24歳までの正規社員の割合は48%（男性）とこれも深刻です。政府もやっと「ワーキン



「あだちサポステ」のセミナー（上）とカウンセリング（下）



吾妻深谷の自然を残そう ハツ場ダム建設現場を視察

研修会の帰り道、建設が中止されているハツ場ダム建設予定地を視察しました。JR長野原駅の上流の吾妻深谷の予定地は、水没予定のJR線路、国・県道の付替工事と340戸の代替地建設が8割がた終わっていました。しかし関東都県の利水は現状で十分足りています。建設をきっぱりやめて、これらの工事を無駄にせず利用し、深谷や大自然をそのまま残すことがいちばん理にかなっていると実感しました。温泉地もそのまま使い、ダム湖となるはずだった国有地も公園や観光資源などに活用すればいいのではないのでしょうか。



付け替えられた県道の橋



グブア調査」を始めたようですが、区としても青年雇用の実態調査をする必要があります。区は、近くにハローワークがあるから」とお任せ姿勢ですが、足立区の報告では、区役所内に「就労支援課」があり、北千住には「あだち若者サポートステーション」があります。昨年は8千人近くが来所、年間200回以上のセミナーに千数百人が参加しているとのこと。文京区でもまず、青年雇用の不安にこたえる総合相談窓口の開設を急ぐべきです。

まんぢ日記

19日 議員団全員が集合し区長当選に「緊急申し入れ」を行いました。高齢者所在不明問題やこの間の学校地調査訪問をもとにした施設改修などを望みました。猛暑の折、学校の全教室の冷房化は来年までには実現させたいです。夜、「礪川おやじの会有志」のみなさんと神宮花火大会を鑑賞。久しぶりに妻と一緒に参加しました。真下で観る花火はなんともきれいです。

20日 午後、腹部エコーの検査を受けました。「ここが肝臓、これが脾臓…」と示してもらいながらの検査は複雑な気持ちですが、健康第一です。

25日 4年ぶりにポスター用の写真を撮りました。このニュースの写真もやっと更新できるかな？